

武藤芳照の正義



て、皆笑顔となる。若き日に、時間と空間を共有した仲間たちと、長い年月を経て再会するのは、楽しく懐かしいものだ。顔を合わせた瞬間に、時間の隔たりが氷解し、当時の関係に戻ってしまう不思議な力があるようだ。

先日、私の出身である愛知県大府市の大府中学校(略称・大中)卒業50周年記念同窓会が開かれて参加した。当時13クラス、580人の生徒のうち、200人の参加に加えて恩師5人も出席され、誠にぎやかで和やかな会となった。

何せ15歳で別れて、50年ぶりに再会する仲間も少なくない。「マドンナに 会わなきゃ良かった 同窓会」「源氏から 光の君に 変わりし 同窓会」一同窓会 言ってしまった あんた誰」という市民川柳そのものの光景も随所で見られた。

小学生時代に、お互いに〇ちゃん、□ちゃんと呼び合って、毎日のように遊んでいた幼友達との再会は格別だった。鬼ごっこ、かくれんぼ、石蹴り、缶蹴り、馬跳び、押しくらまんじゅう、メンコ、ビー玉、コマ回し、タコ揚げ、崖滑り、小川に入っただけの探検(ごっこ)など、実によく遊んだことを学んだこと、小さなけがをして危険回避の方法を身に付けたことなどをあらためて思い起した。

一方、現代っ子の遊びと言えば、一人室内でのテレビゲームやスマホいじりといった実情。組み体操による骨折など体育事故の増加の背景が、幼いころからの日常の外遊び、運動遊び、集団遊びの不足にあることを、幼友達と共感し合ったのもうれしいひとときだった。

中学校(略称・大中)卒業50周年記念同窓会が開かれて参加した。当時13クラス、580人の生徒のうち、200人の参加に加えて恩師5人も出席され、誠にぎやかで和やかな会となった。

小学生時代に、お互いに〇ちゃん、□ちゃんと呼び合って、毎日のように遊んでいた幼友達との再会は格別だった。鬼ごっこ、かくれんぼ、石蹴り、缶蹴り、馬跳び、押しくらまんじゅう、メンコ、ビー玉、コマ回し、タコ揚げ、崖滑り、小川に入っただけの探検(ごっこ)など、実によく遊んだことを学んだこと、小さなけがをして危険回避の方法を身に付けたことなどをあらためて思い起した。

一方、現代っ子の遊びと言えば、一人室内でのテレビゲームやスマホいじりといった実情。組み体操による骨折など体育事故の増加の背景が、幼いころからの日常の外遊び、運動遊び、集団遊びの不足にあることを、幼友達と共感し合ったのもうれしいひとときだった。

中には、お互いの病院での血液検査の値や血圧の値、年とともに身長が縮んできたことなどを半ば自慢げに笑顔で披露し合っている姿もあった。男性A君とB君の会話。「いくつ?」「同じ歳だろう」「いや血液検査の尿酸値だよ!」と、ほとんど漫才のような会話を聞くのも愉快だ。

誰しも必ず毎年1歳ずつ年齢を重ねる。あつ時期に、思春期、青春時代を共に過ごした仲間たちと再会し、「また会えてよかった」と握手し、親しく語り合つことができるのは、誠にありがたいことだ。その時の屈託のないお互いの笑顔は、明日への力になるように思う。

同窓会の笑顔力

振、暴投、エラーの珍プレーや迷プレーにも、笑顔と拍手があふれていた。

高校や大学の元運動部員たちが母校に集まった同窓会の折には、自然とグラウンド、球場、コート、体育館、武道場、プール、合宿所、部室などに足が向く。「夕々にやってみるか」と、それぞれのスポーツに興じ、青春時代の日々をしばしば戻す。そして、皆笑顔となる。

若き日に、時間と空間を共有した仲間たちと、長い年月を経て再会するのは、楽しく懐かしいものだ。顔を合わせた瞬間に、時間の隔たりが氷解し、当時の関係に戻ってしまう不思議な力があるようだ。

先日、私の出身である愛知県大府市の大府中学校(略称・大中)卒業50周年記念同窓会が開かれて参加した。当時13クラス、580人の生徒のうち、200人の参加に加えて恩師5人も出席され、誠にぎやかで和やかな会となった。

何せ15歳で別れて、50年ぶりに再会する仲間も少なくない。「マドンナに 会わなきゃ良かった 同窓会」「源氏から 光の君に 変わりし 同窓会」一同窓会 言ってしまった あんた誰」という市民川柳そのものの光景も随所で見られた。

小学生時代に、お互いに〇ちゃん、□ちゃんと呼び合って、毎日のように遊んでいた幼友達との再会は格別だった。鬼ごっこ、かくれんぼ、石蹴り、缶蹴り、馬跳び、押しくらまんじゅう、メンコ、ビー玉、コマ回し、タコ揚げ、崖滑り、小川に入っただけの探検(ごっこ)など、実によく遊んだことを学んだこと、小さなけがをして危険回避の方法を身に付けたことなどをあらためて思い起した。

高校や大学の元運動部員たちが母校に集まった同窓会の折には、自然とグラウンド、球場、コート、体育館、武道場、プール、合宿所、部室などに足が向く。「夕々にやってみるか」と、それぞれのスポーツに興じ、青春時代の日々をしばしば戻す。そして、皆笑顔となる。

若き日に、時間と空間を共有した仲間たちと、長い年月を経て再会するのは、楽しく懐かしいものだ。顔を合わせた瞬間に、時間の隔たりが氷解し、当時の関係に戻ってしまう不思議な力があるようだ。

先日、私の出身である愛知県大府市の大府中学校(略称・大中)卒業50周年記念同窓会が開かれて参加した。当時13クラス、580人の生徒のうち、200人の参加に加えて恩師5人も出席され、誠にぎやかで和やかな会となった。

何せ15歳で別れて、50年ぶりに再会する仲間も少なくない。「マドンナに 会わなきゃ良かった 同窓会」「源氏から 光の君に 変わりし 同窓会」一同窓会 言ってしまった あんた誰」という市民川柳そのものの光景も随所で見られた。

小学生時代に、お互いに〇ちゃん、□ちゃんと呼び合って、毎日のように遊んでいた幼友達との再会は格別だった。鬼ごっこ、かくれんぼ、石蹴り、缶蹴り、馬跳び、押しくらまんじゅう、メンコ、ビー玉、コマ回し、タコ揚げ、崖滑り、小川に入っただけの探検(ごっこ)など、実によく遊んだことを学んだこと、小さなけがをして危険回避の方法を身に付けたことなどをあらためて思い起した。

一方、現代っ子の遊びと言えば、一人室内でのテレビゲームやスマホいじりといった実情。組み体操による骨折など体育事故の増加の背景が、幼いころからの日常の外遊び、運動遊び、集団遊びの不足にあることを、幼友達と共感し合ったのもうれしいひとときだった。

中には、お互いの病院での血液検査の値や血圧の値、年とともに身長が縮んできたことなどを半ば自慢げに笑顔で披露し合っている姿もあった。男性A君とB君の会話。「いくつ?」「同じ歳だろう」「いや血液検査の尿酸値だよ!」と、ほとんど漫才のような会話を聞くのも愉快だ。

誰しも必ず毎年1歳ずつ年齢を重ねる。あつ時期に、思春期、青春時代を共に過ごした仲間たちと再会し、「また会えてよかった」と握手し、親しく語り合つことができるのは、誠にありがたいことだ。その時の屈託のないお互いの笑顔は、明日への力になるように思う。

(日本大総合研究所 長)